

オープンアクセスリポジトリ推進協会
第3回 JAIRO Cloud 共同運営本部（2025 年度）議事要旨

日 時：2025 年 6 月 25 日（水）9:00-11:00

場 所：オンライン会議（Webex）

議 事：

1. 2025 年度活動計画と実施方策について（審議）
2. JAIRO Cloud 作業部会活動計画について（審議）
3. JAIRO Cloud（WEKO3）の定期的な更新について（審議）
4. JAIRO Cloud に関する近況報告（報告）
5. 意見交換
 - a. JPCOAR が必要とするリポジトリについて
 - b. JPCOAR による運用体制の見直しについて
6. その他

資 料：第3回 JAIRO Cloud 共同運営本部出席者名簿

資料1 JAIRO Cloud 共同運営本部 2025 年度活動予定

資料2-1 JAIRO Cloud 作業部会 2025 年度活動計画

資料2-2 JAIRO Cloud（WEKO3）への要望事項（2023.6-2024.9）

資料3-1 JAIRO Cloud（WEKO3）の定期的な更新について

資料3-2 JAIRO Cloud に関する近況報告

資料4 JAIRO Cloud 今後の方向性について（意見交換）

参考1 JAIRO Cloud 共同運営本部規程

参考2 オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所による JAIRO Cloud
共同運営の役割分担に関する申合せ

参考3 JAIRO Cloud（WEKO3）の定期的な更新について（第22回 JPCOAR 運営委員
会資料）

出席者

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職	備考
石津 朋之	筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ係長	
前田 朗	東京大学工学系・情報理工学系等情報図書課長	
高橋 菜奈子	新潟大学学術情報部長	本部長
次良丸 章	東海国立大学機構名古屋大学附属図書館事務部長	
杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	

大園 岳雄	鳥取大学研究推進部図書館情報課長	
梅田 順一	明治大学学術・社会連携部図書館総務事務室事務長補佐	
鈴木 恵津子	星薬科大学図書館	
谷藤 幹子	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター長	
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授	
細川 聖二	国立情報学研究所学術基盤推進部次長	
首東 誠	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	
林 豊	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長	

欠席

斎藤 未夏	筑波大学学術情報部長	
-------	------------	--

陪席

坂本 拓	国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室 係長	
------	-------------------------------	--

作業部会員等（陪席・順不同）

南雲 修司（東京学芸大）、野田 晶子（金沢大）、赤澤 久弥（大阪大）、大澤 紗都（九州大）、楫 幸子（安田女子）、林 賢紀（国際農研）、田辺 浩介（NIMS）

国立情報学研究所

古橋 英枝	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 係長
増山 廣美	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課主任学術基盤技術専門員
杉山 美紀	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課学術支援技術専門員

尾崎 仁美	オープンアクセスリポジトリ推進協会
相原 雪乃	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課特任専門員

議事要旨

1. 2025 年度活動計画と実施方策について（審議）

資料 1 に基づき高橋本部長から説明があり、要望の取りまとめについては、次のように取り組むこととなった。

- ・ 石津本部員、前田本部員、鈴木本部員、林（正治）本部員が担当する。
- ・ 昨年 11 月末までの要望とそれ以降のものを合わせて整理して第 2 回本部会議（10 月）

で提示し確定する。

また、次の質疑応答、意見交換が行われた。

- ・ タスクフォースで議論された業務フローについては、既存資料を元に整理を行いたい。
 - 林（豊）本部員より、後程、資料を共有する。
- ・ 「機関リポジトリシステムへの要望の取りまとめと精査」とは、現在でも NII 側で要望に沿った作業は行われていると思われるが、それらとは別の要望の形で、共同運営本部の中で取りまとめて精査して進めていくということか。
 - JAIRO Cloud 参加機関からの要望がどのように取り扱われているかが、はっきりしてないという認識があり、今まで溜っていた要望の中で、終了したもの、必要のないもの、現在 NII が取り組んでいるもの等の仕分けをしながら、伝わっていない要望を NII に伝えるという整理のことである。
- ・ JAIRO Cloud 利用機関などからは、安定稼働を最も重視する声を耳にすることが多いため、この点について、優先的に取り組んだ方がよい。

2. JAIRO Cloud 作業部会活動計画について（審議）

資料 2 に基づき、石津本部員から活動計画についての説明があり、次の質疑応答が行われた。

- ・ ニーズに沿った形で研修を行うとのことだが、例えば JUSTICE の電子資料契約実務研修会のような、この研修会に参加しておけば大丈夫といった定例の研修会はないか。
 - 新任の担当者向けの年度初めの研修を企画したいと考えている。
- ・ メーリングリストに代わるコミュニケーションツールの導入に苦戦しているようだが、どこが課題となっているか。
 - 現在の業務フローでは問合せを Backlog に連携し、JAIRO Cloud 事務局窓口業者が着手できる形で問い合わせを受ける自動化ができていますが、新しいツールにおいても自動化の流れを作ることができるかが課題となっている。
- ・ 定型的なパターンの問い合わせはフォームで処理できないか。
 - 検討・検証を進めているところだが、定型的な問い合わせだけをフォームで、その他の問い合わせはメーリングリストでという枝分かれがあると、また混乱が起こる懸念があり、問い合わせはすべて一つのチャンネルで、コミュニケーションは slack でというように分けるのがよいという意見がある。
- ・ 作業部会のマンパワー不足が、これら取り組みが進まない要因になっていると思うので、作業部会の補強について、JPCOAR として取り組まなければいけないのではないか。

3. JAIRO Cloud (WEKO3) の定期的な更新について（審議）

林（正治）本部員から資料 3-1 の説明があり、次の質疑応答があった。意見を踏まえ、定期的な更新の「計画」ではなく、「考え方について」の文書であるという整理をし直して、資料を公表することとなった。

- ・ 会員機関にも NII がこのような考えを持って更新していることをアナウンスすることが

必要ではないか。

- ・ ここで計画されている通り更新ができるのかという懸念がある。
 - 長期方針の中で年4回は目標であり、それ未満にもなることは記載している。
 - あくまで例・参考ということで記述しているが、誤解されない書きぶりにする必要はある。
- ・ 会員機関にも更新のスケジュール感があると、唐突に更新が行われる不安感を和らげることができるので、ミスリードされないよう表題など工夫した上で説明をしておいた方がよいのではないか。
- ・ 更新の内容について、JPCOAR と協議している感がなく、すべて NII が決めるというように読めるのが気になる
 - 無下に拒否しているのではなく、開発状況によっては変わる可能性もあることをご容赦いただきたいということを示したかった。
 - 概要部分に、「申合せ」の役割分担を踏まえて NII はこの方針によるスケジュール感や必要性の観点で進めていく、という考え方が書かれているのではないか。
 - プロフェッショナルとして NII が責任を持って開発しているという態度でよいと思う。

4. JAIRO Cloud に関する近況報告（報告）

資料 3-2 に基づき首東本部員から説明があり、次の質疑応答があった。

- ・ JAIRO Cloud のリポジトリ機関が、COAR IRD にすべて反映されていないが、状況をご教示いただきたい。
 - COAR 側から提出されたデータがかなり誤っており、現在 NII で修正を行っている。
 - 日本の責任機関（窓口）は JPCOAR で、データのやりとりは NII が行っている。今後の対応については相談して進めていきたい。

5. 意見交換

資料 4 に基づき高橋本部長から趣旨説明があり、次の意見交換が行われた。

- ・ カスタマイズ性と安定性との関係性について、機関ごとの設定が千差万別であることが、想定しない不具合の原因になっていることが想像されるが、本当にカスタマイズ性の高さが課題なのか開発者に確認したい。WEKO3 のメンテナンスが楽になることに加え、先々新しいものに移行する時に、一気に画一的なシステムに合わせるのではなく、今のうちに足並みを揃える方向に利用機関側でも動いておいた方がよいのか。
 - カスタマイズ性を少なくするのがシステムの複雑性を排除することではある一方で、ある程度のカスタマイズが必要な部分も中には存在している。
- ・ 負荷が高い機能を単純化したり、残したい機能と不要な機能を順序付けしたりしていくことを行って、先々の JAIRO Cloud がどうあるべきかにつなげていくことはできるか。
 - 議論はできるが、かなり長いスパンで考えなければならない。ただ、ご提示いただいた方法はとっていくべきことだろうと思う。
- ・ 結局、機関ごとのカスタマイズをやめれば改善されるのか、YES/NO で答えるとしたらど

ちらか。

- 現在の安定的でない問題が解消するかについては NO。今後の機能のシンプル化、運用のシンプル化という意味では YES だが、カスタマイズをやめれば単純化されるということだけなので、安定稼働とはまた違う問題である。
- 開発者としては、安定化のためには、バグ修正の周期を早めるほうが効果的だと考えている。
- ・ エラーメッセージを見て、メタデータの型や構造が読めずエラーになっているように見えていたがそうではないのか。一旦メタデータを綺麗にした状態で、バグ修正した方が楽なのではないか。
- それらは移行時と新規環境構築のずれに起因していたが、既にそのプロセスは通過して改善しているので、問題は徐々に少なくなっている。
- ・ 安定化の見通しはどれくらいであるか。
- 安定稼働については、短期の修正のプロセスを早く回せる取り組みを始めている。いつまでという明言はできないが、開発状況を見るとレアな問題の修正に入ってきているので徐々に改善していくだろうという見込みである。
- JAIRO Cloud の安定運用のため、既存の不具合の修正は最優先事項とされており、2025 年度の事業計画にもその方針が反映されている。
- 新旧の不具合に対して、RCOS とコンテンツ課が連携し、状況の変化を踏まえながら、対応の優先順位やリリースのタイミングを柔軟に判断して最適化している。
- ・ 会議内では意見交換の時間が十分に取れなかったため、取り上げられなかった論点は次回へ持ち越しとし、引き続き、JPCOAR と NII の間で密に意見交換を進める旨、本部長から発言があった。